

私のネコたちの物語 3

さくら^{まい}舞^ち散る



作 すみ ゆかこ
絵 藤本 とねこ

まい ち
さくら舞散る



作 すみ ゆかこ
絵 藤本 とねこ

まい
舞に

さくら さ まい かえ
桜が咲くと 舞が帰ってくる。
まいさくら さくら はや なが さ
舞桜は、どこの桜よりも早く、長く咲いている。

きんじょ ひと い
近所の人たちも言います。
「さすがねえ。舞ちゃんのパワーよね。」

まい す た みんな あい まも い
舞よ、好きなものいっぱい食べて、皆に愛され、守られて生きたね。
わ みち く
「我が道に 悔いはなし！」でしょう。

ねんきん こうぶつ か た
おばあちゃんは年金であなたの好物を買い、食べさせてくれた。
わす なみだ で
ママは「忘れられない。涙が出てくるよ。
すこ てんごく ま
でも もう少し天国で待っていてね。
しごと のこ い
まだ、仕事が残っているのよ。」と言ってます。

まい まえ やつ
舞よ、お前はたいした奴だった。
えん こうばん
ぬれ縁で、ひねもす香箱すわり。
まえ おも だ
お前を思い出します。

ねこ てつがくしゃ はる しろ て ひと
—— 猫は哲学者 あかず春をみをり —— (白い手の人)

あい まい やす
愛する舞よ 安らかに。



にっぽんかい くろ なみ あら ゆき よこ ふぶ
日本海は黒く、波が荒く、雪は横に吹雪いています。

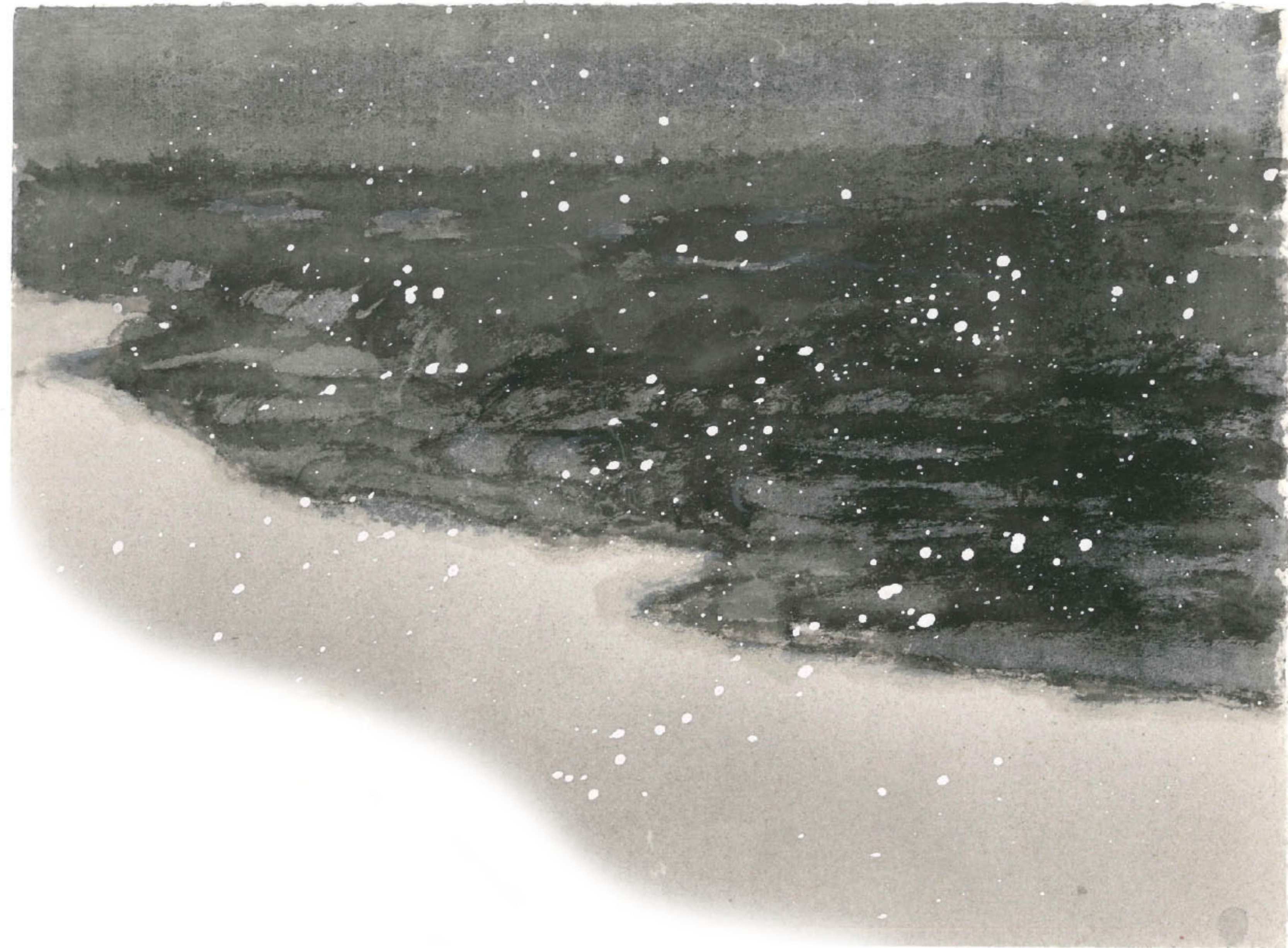
ひき ちい だん なか
4匹は小さい段ボールの中にひとかたまり、
ブルブルと震えていました。

め
目もはっきり見えない、
くび だ ふ と
首を出すと吹き飛ばされる、
はこ かぜ なみ も い
箱ごと風に波に持って行かれる。

ぬく もと
温もりを求め、
みな からだ
皆で体をひとつにして、
かたすみ まる
片隅に丸くなっていました。

— こわいよ さむいよ —

ミャーミャー ちから な
力いっぱい泣きました。





と、その時^{とき}でした、
かすかに風^{かぜ}の間に歌声^{うたごえ}が聞こえます。

海^{うみ}はあらうみ むこうは佐渡^{さど}よ～

—— だれかくる だれかいるよ！ ——
4匹^{ひき}はさらに大きな声^{おおこえ}で泣^なきました。

—— たすけて！ ミャー ミャー ——

「猫^{ねこ}の子^こかあ、
可哀^{かわいそう}想^ごに凍^しえ死^しんでしまうよ。
寒^{さむ}かったねえ。」

男^{おとこ}の人^{ひと}は4匹^{ひき}を次^{つぎ}々^{つぎ}つまみ、
上^{うわぎ}着^{うち}の内^いポケットに入れてくれました。

—— あたたかい たすかった ありがとう！ ——



ひき だいがく くら はだかでんきゅう ぶしつ つ い
4匹は大学のうす暗い裸電球の部室に連れて行かれました。

はま す
「浜に捨てられていたんだ。生きていてよかった。

みんな ひき と
皆、引き取ってやってよ。」

うわぎ ひき つくえ うえ だ
上着のポケットから4匹を机の上にヒョイヒョイと出しました。

ねこ な
猫はミャーミャー泣きながらグルグル、ウロウロ。

さんぼう ひ て で み け しろくろ ま くら
三方から手が出て、三毛、白黒、真っ黒と。

でも、マダラのチビには手がのびない。



マダラは向こう側の白い手に必死に這って行きました。

—— しろい手、しろい手 ——

しろい手にしがみつきました。



わたし
「私をめがけてきたのね。かわいいね。」

「ポロ雑巾みたいだ、よごれモップみたいだよ。」

だれ
誰かがマダラをつつきます。

わたし
「私、この子にする。プリント悪いけど、目が可愛いもの。」

しろい手
白い手の方はマダラを摘み上げ、手の中にそっと包み込みました。

ゆき
「雪の舞う日に、私の所に来たから、お前は舞、舞だよ。」

マダラの猫は舞になりました。



しろ て ひと い がくせい
白い手の人は、医学生でした。

げり じぶん くすり すこ くち
下痢をすると自分のお薬を少しお口に。
すぐ治りました。

— さむいよ さむいよ —

まい な そくおんき うえ
舞が泣くと足温器の上にバスタオルをかけて
「ここで、寝なさい。」

な
やさしく撫でてくれました。



わたし じゆぎょう いそ
「でもね。私はこれから授業が忙しくなるのよ。
まえ じっか そだ
お前は実家で育ててもらおうね。」

つきご にちようび ちい い
ひと月後の日曜日、小さいバスケットに入れられて、
まい ながの ねこ
舞は長野の猫になりました。





ねこぎら すこ きむずか
猫嫌いで少し気難しいパパ、

ねこだいす
猫大好きなママ、

やさしいおばあちゃん、

その家族のいちいん
一員になります。

「でもパパがお前のことを認めるまでは、

おばあちゃんの部屋暮らしよ。」

まい
舞は、おばあちゃん預けとなりました。

そら な だ
「空が泣き出しそう。」

にいがた ゆき
新潟は雪だよ。

みんな まい ねが
皆、舞をお願いね。

パパ、くれぐれもよろしく。」

しろ て ひと かえ
白い手の人帰ります。

まい じころぼそ
舞は心細かったけど、ママに抱かれて

—— わたし、がんばる！ ——

みんな みんな しんせつ
皆みんな親切でした。

まい まい こい
舞はおっばいが恋しいと、
ママの みみ した した
ママの耳たぶに舌をからませチパチパして、
まい ばん いっしょ ねむ
毎晩一緒に眠りました。

おばあちゃんは
くるま こわ
「車は怖いからね。
ある どうろ わき みぞ なか い
歩くときは道路脇の溝の中をきなさい。」

そっこう まい きん ぼ みち
側溝が舞の散歩道になりました。

そのうち、パパは
まい まい
「舞！ おいで！」
あぐら なか い
と胡坐の中にすっぽり入れてくれました。

—— パパがだいてくれた！ ——

あたたか い ごこ ち さい こう
暖くて居心地最高です。

よご ぞうきん い
汚れモップ、ボロ雑巾と言われたのに、
なに まい
何よりパパが舞のとりこ。

まい まい
「舞のすごいのは、
ねご ざら ど てん かん
猫嫌いのパパを 180 度転換させたところだね。」

しろ て ひと
白い手の方は、ほめてくれました。



お向かいの保坂のおばちゃんは
手の平にかつお節をのせて、毎日おやつをくれます。

— おいしい やさしいひと だいすき！ —

玄関先で舞が寝そべっています。



近所の子達が
「この猫、汚ない模様なのに、
ここの家の人すごく可愛がっているよ。」

すると、おばちゃんと言います。
「皆、そんなこと言わないで、
きれいなお洋服の美人の子でも
イジワルさんいるでしょ。
この子はやさしくて、とってもいい子なのよ。」

舞は幸せでした。皆に愛されました。

— 幸せって 自分でつかむもの —
とおもいました。



あの日から何年の月日が流れたでしょうか？

ある年の夏、ヒマワリが咲き誇るころ、
おばあちゃんは倒れ、天国に逝きました。



舞はショックでしょんぼり。

「舞ちゃん、寂しいね。」

皆が慰めてくれましたが、
悲しめで目が明かないほど、打ちのめされました。



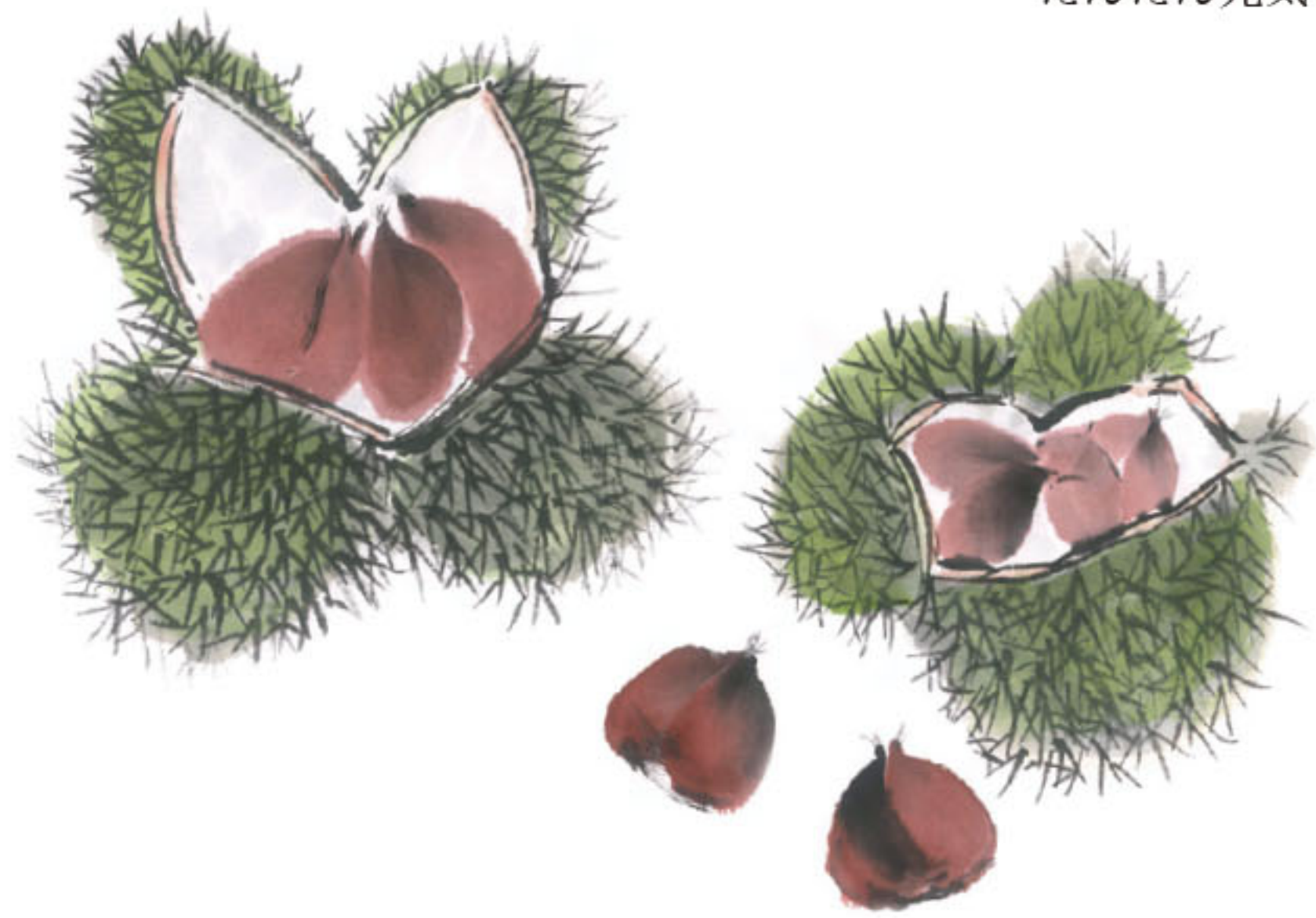
咲き誇ったヒマワリたちも枯れ、やがて秋の日。

でも、舞の悲しみは消えません。

「うしろ姿、寂しそうね」保坂のおばちゃんと言います。

白い手の方は「国家試験の準備なのよ、忙しいのよ。」

なかなか帰ってきません。



雲が流れザーッと風が吹くと、庭の栗の木、

イガイガの実がたくさん落ちます。

そんな庭のうつろいを舞はあかず見ていました。

「元気だせよ、舞！」パパが抱いてくれました。

涼しくなって、食欲も出て、

皆に囲まれた舞は、

だんだん元気をとり戻してきました。

その年も雪が積もりました。

お隣の細川のおじいちゃんが、

舞の歩く道を、雪かきで空けてくれます。

「元気出して。舞の道だよ。」

—— ニャーン ありがとう ——

そこを通り、トイレに行きました。



はる はなび ひ
春、花冷えのある日でした。

さくら ま
桜がヒラヒラ舞っていました。

トイレ帰りの舞は、

きゆう むね くる さくら き した たお
急に胸が苦しくなり、桜の木の下に倒れました。

「マーイ、マーイ～」

とお よ こえ き た
遠くに呼ぶ声が聞こえるけど立てません。

うす いしき なか まい お はな み
薄れゆく意識の中で、舞落ちる花びらを見て

— あ、ゆき だ はまべ …… —

まい ひ おも
舞はあの日を思いました。



わたし うんめい ひ はま はじ
—— 私の運命は、あの日、あの浜から始まった。

しろ て しあわ よ ところ
白い手の幸せをたぐり寄せ、おばあちゃんの所で、

みんな あい ま せい いっぱい い なんねん
皆の愛を待ち、精一杯生きてきた。もう何年たつかしら？

あい
いっぱい愛をもらったわ。ありがとう ——

さくら はな おお い まい
桜の花びらに被われて逝ったマダラの舞は、
パパの手で桜の木の下に埋められました。

ながの さく にわ ことし まいさくら さ ほこ
長野・佐久の庭には今年も舞桜が咲き誇ります。



私のネコたちの物語 3

さくら舞散る

■ 作：すみ ゆかこ

■ 絵：藤本 とねこ

■ 2022年0月00日 発行



■ 編集・制作・出版：那須 由莉（らびす舎）
〒389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町追分 5605
Mail：lapiz@ia5.itkeeper.ne.jp

■ アートディレクション・デザイン：柳谷 廣之

定価：1,000円（税込み）